

花鳥畫傳

初編  
全

170



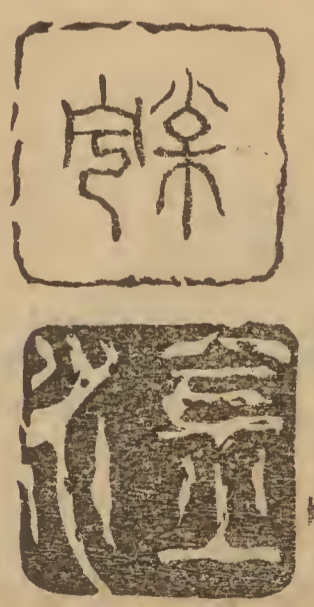
一、いふ よ の 水 を 洗 ひ て 眼 の 邊 は の 水 を 洗 ひ て  
書 畫 家 の 事 は さ し て 相 傳 ふ べ し 画 法 は あり  
手 に 戴 斗 子 の 業 を 為 一 人 の  
門 に 受 け ぬ 家 秘 傳 の 妙 は あり 人 は  
氣 に ま ば い ふ 贊 せ ば その 骨 格 を 突 削 て  
水 を 洗 ひ て 更 也 余 對 魚 之 意 の  
数 年 を 過 す 未 だ く 痛 む は い ふ 事 は あり

一、す 一 個 の 美 才 は 大 の 道 を 遊 び た  
四 人 を 召 す て 法 則 を 傳 へ し た  
鑄 造 の 術 を 傳 へ し た

干の嘉如水成申仲冬の

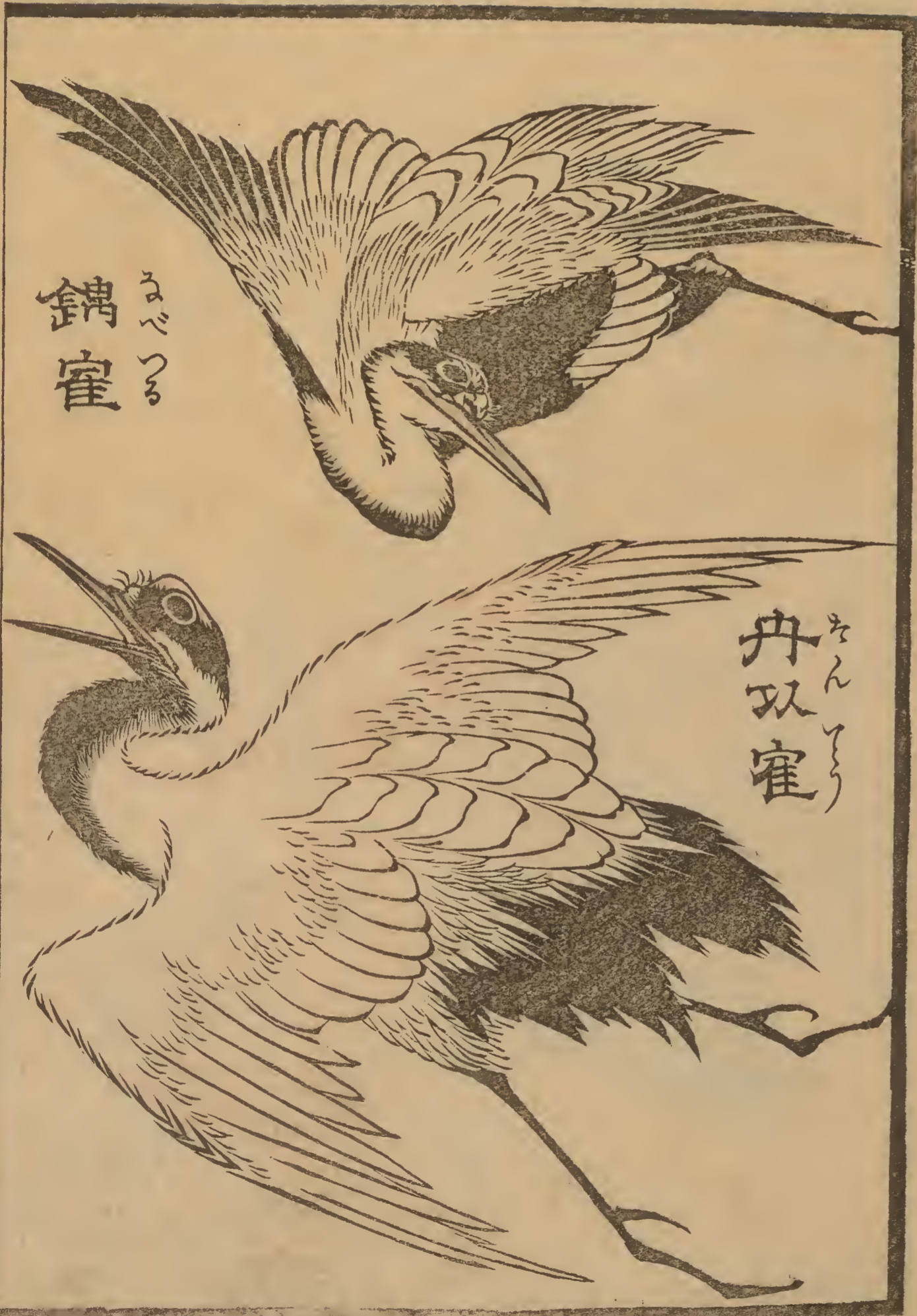
真鳥

松真金水類





萃桐  
鳳凰



鶴つる  
鏝まげ窟くつ

丹に双ふた窟くつ



常盤木ついで  
鶴つる  
玄那窟あまのくつ



櫻木  
女鳥







山鶉  
木櫃糸



山鶉  
木櫃糸



四十雀鶴あひつ



水雀みづなづ



啄木鳥さくも

朽樹くちき



花鳥画傳の編  
水鳥画傳の編



花鳥画傳初編



深田鳥



加平 栢 鷲 孟

花鳥画傳初編  
 深田鳥  
 加平 栢 鷲 孟

菊華雀

三ノ鳥



花鳥圖傳  
三ノ鳥



南燭 ええ

鸚鵡 ひよどり



花	鳥	鳥	鳥	鳥
画	画	画	画	画
傳	傳	傳	傳	傳
初	編	編	編	編

十六

嬰子ケ



杜鵑ほととぎす



郭公かみどり



花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編  
花鳥画傳初編

十一

櫻州 さくらさう



鶺鴒 せきり

島鶺鴒 しませきり  
紅葉 こうじ



蒲公英 たんぽぽ

花鳥博覧編  
鳥類  
鶺鴒  
島鶺鴒  
紅葉

三十一

両雀諍  
そやまがめあま



花鳥画傳の編

一〇

嵩鳥  
たき  
かき



鳩鵲  
うさぎ

覆雀  
あしひたか



花鳥画傳の編  
たき  
かき  
あしひたか

一三



花鳥画傳加編



花鳥画傳加編

十四

花鳥画専初編



唯紅鳥 のたんり

野の梅

鶺鴒 ひんげ

十六



唯紅鳥 れこどり

鶺鴒 ひんげ

初編 花鳥画 専初編

十五



花鳥圖傳 初編



雪中  
鴛鴦

花鳥圖傳 初編

初編

花鳥圖傳初編



白藤ハハ菜

白鳥ハハ



鶯ハハ

白鳥ハハ

花鳥圖傳初編

十七

花鳥画傳の編



画眉鳥 やういろう

木瓜華 ぼけ

鶺鴒 むこ

桑扈 まごころ



菊戴 きくいかさ

花鳥画傳の編

花鳥

鳥類考  
卷之四  
野鶯

野鶯  
のいせう

雀  
さしづや

白丁木  
まき



黄鳥  
わうてやう



鳥類考  
卷之四  
黄鳥

九

鳥類考  
鷹  
柏



柏鷹



柏鷹  
傳

三



四季咲えんの

茨いばら



鷹鳥たか



花鳥圖傳初編

七三

鶴  
古松



花鳥圖傳初編

九二



青鷺 あほさぎ

青柳 あほやなぎ

鷺 さぎ



同 おほさぎ





青<sup>あし</sup>丹<sup>あし</sup>  
 鳳<sup>かん</sup>



社鳥通稱

廿五



真鵪

栗穂





芋直貴久  
秦吉了





花鳥山鳥編

上



花鳥山鳥編

下



木き鬼おに  
木き蓮れん華が



上馬山手ノ用

七一

哀え永なが

木き古こ  
木き丈ぢょう



花鳥通傳衣糸

ナ

三國英雄画傳

一勇齋國芳画

此は三國英雄之圖也其名を以て英雄にあり其の功績をその小傳に  
附して其の徳を以て傳へるが如し其の功績をその小傳に附して其の徳を以て傳へるが如し

一勇畫譜

全画

此は一勇の畫譜也其の畫を以て傳へるが如し其の功績をその小傳に附して其の徳を以て傳へるが如し

花鳥画傳二編

葛飾戴斗画

此は花鳥画傳二編也其の畫を以て傳へるが如し其の功績をその小傳に附して其の徳を以て傳へるが如し

江戸日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

發行書林

河内屋茂兵衛

心  
人  
心  
洋  
師  
心  
持

